

中央教育審議会
第10期生涯学習分科会
報告：萩原なつ子

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科・教授
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター代表理事

第10期生涯学習分科会の検討課題 本日の報告のポイント



人生100年時代のライフデザイン
立教大学社会人向け大学院の事例
☞ パラレル・キャリア



困難を抱える子供への支援
NPO法人WAKUWAKUネットワークの事例
☞ ソーシャル・キャリア形成、プロボノ



住民主体の地域社会の課題解決☞ 担い手、連携・協働
消滅可能性都市から持続発展都市へ 豊島区の事例

社会人教育 生涯学習の事例

立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科

2002年4月「立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科（修士課程）」設置

2007年4月「立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科（博士課程）」設置

2008年10月 研究科附置研究所「立教大学社会デザイン研究所」設立

21世紀社会デザイン研究科

専攻 比較組織ネットワーク学専攻

課程 博士課程（前期課程・後期課程）

学位 修士・博士（社会デザイン学）

場所 立教大学池袋キャンパス

形態 昼夜開講制

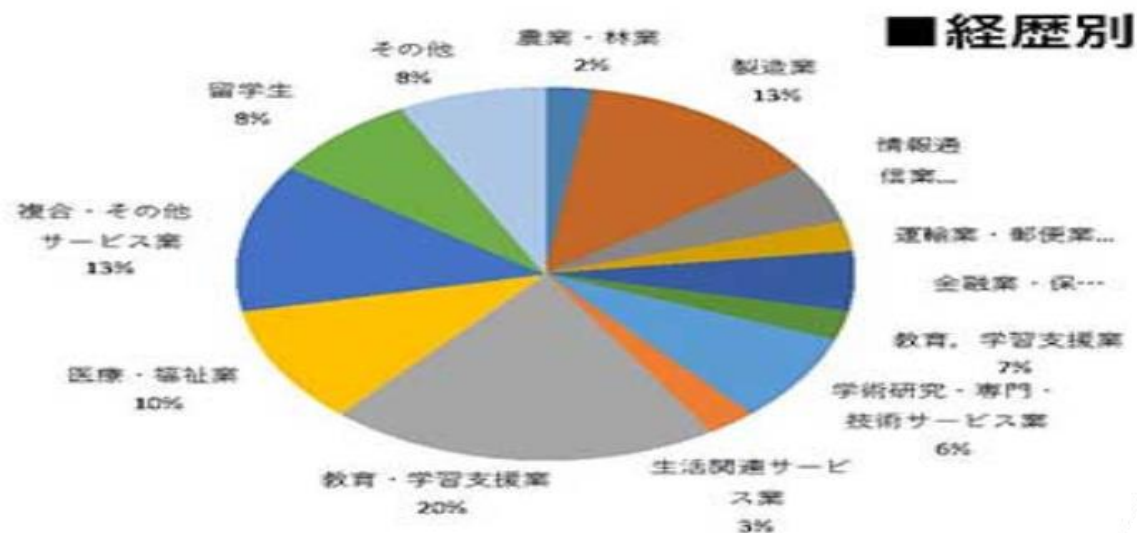
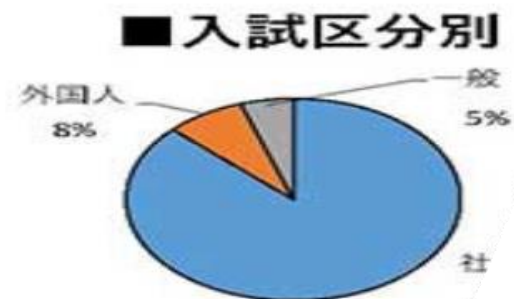
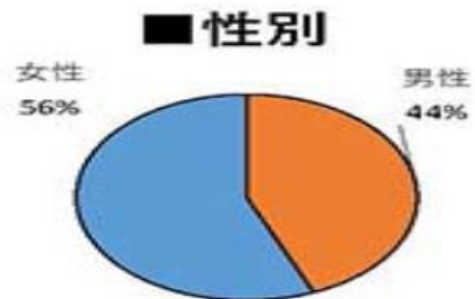
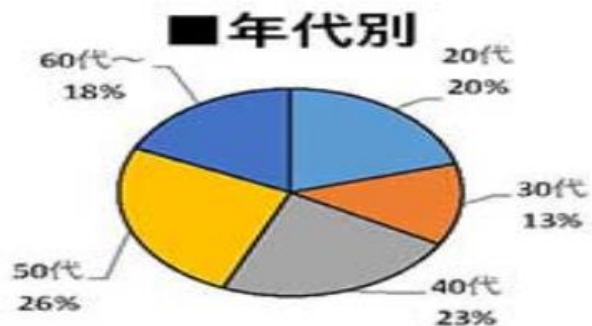
設置年月 2002年4月（博士課程後期課程は2007年4月）

入学定員 前期課程50名、後期課程5名

専任教員数 12名



多様な分野、多様な年代、多様な経歴の院生が在籍



関連学会やパートナー企業、NPO/NGO、自治体、地域との連携による実践的研究

本報告に関連する研究例

1. 2016年度 修士論文『サードプレイスとしての大学院が働き方に与える影響に関する研究』

社会人が働きながら大学院に通学することによって現れた現象

WLB：授業時間に間に合わせるため、学業を遂行するために早く退社するという動機づけが発生

☞仕事の段取り、生産性の向上、勤務時間の調整、同僚とのコミュニケーション

☞大学院の存在が、仕事から物理的にも、精神的にも離れることによりストレスが軽減

2. 『日本の公立学校に通う外国にルーツを持つ子どもの学習の機会に関する研究』

• 日本語を学ぶ機会のないまま来日後数年間を過ごす子どもの存在

☞保護者が日本の教育システムを知らない

☞多忙な公立学校の教員がプライベートな家庭の事情にまで踏み込みことは困難

☞NPO、行政、学校、日本語教師、ボランティアなどの連携・協働による支援が重要

☆ NPOへの支援が不可欠

NPO法人 豊島子どもWAKUWAKU ネットワーク

<https://toshimawakuwaku.com/gakusyuu/>

2012（平成24）年6月24日

地域の子どもを地域で見守り育てるために設立

教育格差、貧困の連鎖が広がっています。

生活保護を受けている、もしくは年収が生活保護費とかわらないワーキングプアの家庭で育つ子どもが、7人に1人いるのです。

地域の子どもを、地域が見守り、学びや暮らしを有機的に支えるネットワークをつくり、子どもの未来を明るく変えていきたい

さまざまなカタチの居場所を通じて、信頼できるおとなや若者につながったとき、一人の子どもの人生が大きく変わる可能性があるかと信じています。

HPより抜粋



「遊びサポート」事業
プレーパーク
「学びサポート」事業
無料学習支援
「暮らしサポート」事業
子ども食堂

無料学習支援

教育格差による貧困の連鎖をくいとめるために、無料学習支援を実施しています。

家庭の状況に左右されることなく学びの場を保障します。

学習が遅れている子、勉強が苦手な子、ひとりで宿題ができない子など、地域の気になる子をどうぞ連れてきてください。

学生や地域住民が、丁寧に対応します。
子どもたちは家から遠い場所には通えないので、地域に無料学習支援の場を点在させることをめざしています。

外国人の子どもへの日本語教室も始めています。



無料学習支援では、
「学生・社会人ボランティア」を募集しています。
興味のある方はクリックして詳細をご確認ください。



23区唯一の消滅可能性都市となった豊島区 子育てしやすいまち、誰もが暮らしやすいまち日本一への挑戦



100人女子会

メンバー
募集

F1会議



わたしたちがとしまを変える！！

2014年

5月8日

日本創生会議が豊島区を
「消滅可能性都市」と発表

5月16日

「豊島区消滅可能性都市」
緊急対策本部を設置

5月29日

「としまF1会議*1」
「としま100人女子会」
開催を発表

7月19日

「としまF1会議」
キックオフイベント
(としま100人女子会)
開催

8月9日

第1回
「としまF1会議」開催

2015年

12月11日

第6回
「としまF1会議」開催
(区長にプランを発表)

2月4日

平成27年度予算案発表
(F1会議提案の11事業
8,800万円予算化)

2月12日

としまF1会議報告会

「消滅可能性都市」と指定されてから、
1週間で緊急対策本部。
3週間で当事者である若年女性の意見を
ヒアリングする仕組み
(としまF1会議の開催)を構築。

7月19日のキックオフイベントから
翌年2月12日のF1会議報告会までの270日間で、
区民の意見を直接反映した
11事業8800万円の予算化に成功。

*1 としまF1会議：子育て世代である20～30歳代を主体とし、当事者の意見やニーズを振り起こすとともに、女性の区政参加を促進するために設置。学識経験者、キックオフイベント「としま100人女子会」参加者、区主催のワーク・ライフ・バランスフォーラム交流会参加者、豊島区ワーク・ライフ・バランス推進認定企業の勤務者、区職員ら32人の委員で構成。女性が暮らしやすいまちづくりのさらなる推進を図っていくため、20歳から39歳までの女性を中心に活動。

女性にやさしいまちづくりの キャッチコピー・シンボルマーク



わたしらしく、
暮らせるまち。

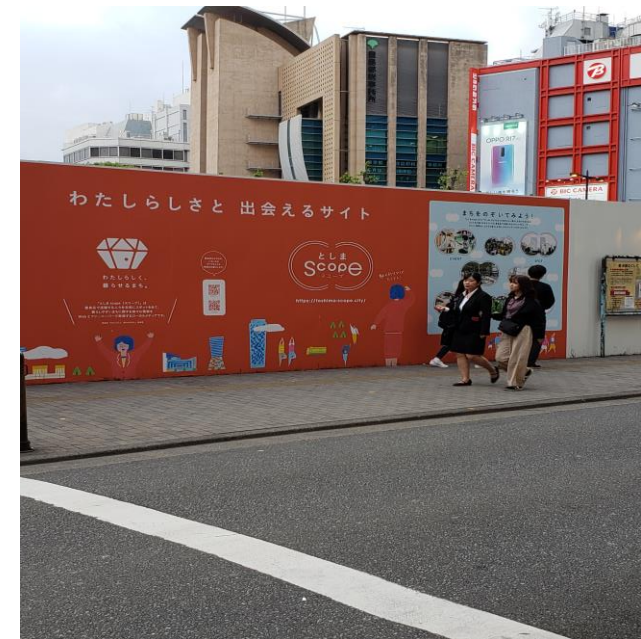
「女性にやさしいまち」とは、女性だけにやさしいまちではなく、子どもや高齢者、障害者、外国人など、すべての人にやさしいまちです。

ひとりひとりの多様なライフスタイルを大切にすることを基本コンセプトに、女性に視点をあわせてまちを見渡すことで、まちづくり全体を見直し、子どもや高齢者、障害者、外国人などすべての人にとって、住みやすく、働きやすい、「誰もが自分らしく暮らせるまち」を目指していきます。

また、子育て世代・働く世代から「住みたいまち、住み続けたいまち」として選ばれるまちを目指します。

2016年4月☞女性にやさしいまちづくり課設置

2017年4月☞わたしらしく、暮らせるまち。推進室設置

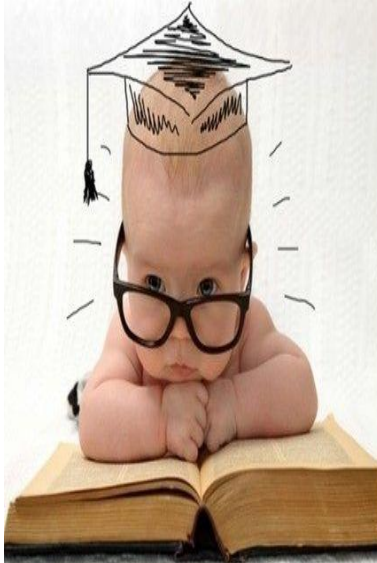


立教大学公開講座 ベネッセコーポレーション共催・豊島区後援



ママになっても、
パパになっても、
学び続けたい

9/3(土)開講決定!
ママtomoパパtomoカレッジ
2016年秋 1DAY講座
ママ150人、
パパ100人
先着順!



たまひよ
COLLEGE



人生100年時代のライフデザイン パラレルキャリアのすすめ

もっと多様な生き方を
しよう！仕事とは
別の顔を持とう！

ピーター・ドラッカー(1992年)

『明日を支配するもの

—21世紀のマネジメント革命』

☆本業+第二のキャリア

👉複数の顔、名刺

ジョブ・キャリア+ソーシャル・キャリア

☆スキルアップ、社会貢献活動

大学、大学院で学ぶ NPO活動

☆フロボノ(フロボノパブリコ=公共のために)

👉本業のスキルをボランティアで活かす

2012年(平成24年)3月12日(月曜日)

仕事と社会活動を両立

仕事を優先する40代は減っている

年	仕事を優先する割合
2004年	約40%
07年	約30%
09年	約20%

40代 惑いの10年 一歩前へ

働き方変え時間作る

複数の顔持ち豊かな人生

ワークライフバランスの実現



わたしにできることは...

ありがとうございました